

1  $\mathbf{R}^2$  において, 微分形式  $\varphi = x_1 dx_2 - x_2 dx_1$  と, 点  $(\cos \theta, \sin \theta)$  における接ベクトル

$$v = -\sin \theta \frac{\partial}{\partial x_1} + \cos \theta \frac{\partial}{\partial x_2}$$

に対し,  $\varphi(v)$  を求めよ.

2  $\varphi = xdy$  とする. 次の道  $\gamma$  に沿った線積分  $\int_{\gamma} \varphi$  を直接計算せよ. (1) 中心  $(a, b)$ , 半径  $r$  の円周 (反時計回り), (2) 辺が  $x$  軸と  $y$  軸に平行であり, 長さがそれぞれ  $a, b$  である長方形 (反時計回り).

3 線積分

$$\int_{\gamma} \varphi := \int_{t_0}^{t_1} \{f(\xi(t), \eta(t))\xi'(t) + g(\xi(t), \eta(t))\eta'(t)\} dt$$

に対し, 次を示せ.

$t = \tau(s)$ ,  $s_0 \leq s \leq s_1$  は  $\tau(s_0) = t_0$ ,  $\tau(s_1) = t_1$  を満たす区分的に  $C^1$  級である連続な増加関数とし,  $\varphi(s) := \xi(\tau(s))$ ,  $\psi(s) := \eta(\tau(s))$  とするとき,

$$\int_{t_0}^{t_1} \{f(\xi(t), \eta(t))\xi'(t) + g(\xi(t), \eta(t))\eta'(t)\} dt = \int_{s_0}^{s_1} \{f(\varphi(s), \psi(s))\varphi'(s) + g(\varphi(s), \psi(s))\psi'(s)\} ds$$

である.

$(\xi(t), \eta(t))$  ( $t \in [t_0, t_1]$ ),  $(\varphi(s), \psi(s))$  ( $s \in [s_0, s_1]$ ) は, ともに  $C^1$  級で常に  $\|(\xi'(t), \eta'(t))\| > 0$ ,  $\|(\varphi'(s), \psi'(s))\| > 0$  であり, 始点と終点が等しく, 共通の像への全単射をそれぞれ与えるとする. このとき,  $C^1$  級増加関数  $t = \tau(s)$  が存在して  $\varphi(s) = \xi(\tau(s))$ ,  $\psi(s) = \eta(\tau(s))$  となることが示せる.

4  $\mathbf{R}^2$  上の  $C^1$  級 1 形式で積分可能条件を満たさない例を与えよ.

5 複素平面上の  $C^1$  級関数  $f(z) = u(x, y) + iv(x, y)$  ( $z = x + iy$ ) に対し,  $f(z)dz$  の積分可能条件 (実部・虚部それぞれに考える) は,  $u, v$  に関するコーシー・リーマン関係式と同値であることを示せ.

6 平面の, 原点以外で定義された微分形式

$$\varphi = \frac{-y}{x^2 + y^2} dx + \frac{x}{x^2 + y^2} dy$$

と道  $\gamma: [0, 2\pi] \rightarrow \mathbf{R}^2$ ,  $\gamma(t) = (\cos t, \sin t)$  に対し, 線積分  $\int_{\gamma} \varphi$  を計算せよ.

特に,  $\varphi = dF$  となる  $C^1$  級関数  $F$  は存在しないことを説明せよ.

7  $U$  を  $\mathbf{R}^n$  の領域とし,  $P \in U$  とする.  $U$  の中の区分的に滑らかな連続曲線で  $P$  と結べる  $U$  の点の全体を  $V$  とし, 結べない  $U$  の点の全体を  $V'$  とする.

(1)  $V$  は  $P$  を含む開集合であることを示せ.

(2)  $V'$  は開集合であることを示せ.

(3)  $U = V$  であることを示せ.

8 (1)  $\mathbf{R}^4$  上の 2 形式  $\omega = dx_1 \wedge dx_2 + dx_3 \wedge dx_4$  に対し,  $\omega \wedge \omega$  を計算せよ.

(2)  $\mathbf{R}^{2m}$  上の 2 形式

$$\omega = dx_1 \wedge dx_2 + dx_3 \wedge dx_4 + \cdots + dx_{2m-1} \wedge dx_{2m}$$

に対し,  $\wedge^m \omega$  を計算し, 0 にならないことを示せ.

9  $\mathbf{R}^2$  の開集合  $U$  上の  $C^1$  級関数  $f(x, y), g(x, y)$  に対し, 全微分の外積  $df \wedge dg$  を  $dx, dy$  で表せ.

10  $\mathbf{R}^3$  の開集合  $U$  上の 1 形式

$$\varphi = \varphi_1 dx_1 + \varphi_2 dx_2 + \varphi_3 dx_3, \quad \psi = \psi_1 dx_1 + \psi_2 dx_2 + \psi_3 dx_3$$

に対し,  $\varphi \wedge \psi$  を求めよ.

答えを出したあとで, 空間ベクトルの外積  $(\varphi_1, \varphi_2, \varphi_3) \times (\psi_1, \psi_2, \psi_3)$  と比較せよ.

11  $R^4$  の 2 形式  $\omega = dx_1 \wedge dx_2 + dx_3 \wedge dx_4$  は, どのような 1 形式  $\varphi, \psi$  を用いても  $\omega = \varphi \wedge \psi$  と一つの外積の形に書くことはできない. これを示せ.

12  $R^3$  の座標を  $(x, y, z)$  とするとき, 次の微分形式の外微分を計算せよ.

(1)  $yzdx + xzdy + xydz$     (2)  $zdx + xdy + ydz$     (3)  $xdy \wedge dz + ydz \wedge dx + zdx \wedge dy$

13 問 6 の  $\varphi$  について, 外微分  $d\varphi$  を計算せよ.

14  $R^3$  において以下の外微分を計算し,  $\text{grad}$ ,  $\text{rot}$ ,  $\text{div}$  との対応を確認せよ.  $x = (x_1, x_2, x_3)$  とする.

(1) 関数  $F(x)$

(2) 1 形式  $\varphi = \varphi_1(x)dx_1 + \varphi_2(x)dx_2 + \varphi_3(x)dx_3$

(3) 2 形式  $\eta = \eta_1(x)dx_2 \wedge dx_3 + \eta_2(x)dx_3 \wedge dx_1 + \eta_3(x)dx_1 \wedge dx_2$

(4) 3 形式  $f(x)dx_1 \wedge dx_2 \wedge dx_3$

15  $R^4$  の座標を  $(t, x, y, z)$  で表し,  $R$  と  $R^3$  に分けて微分形式の計算をしてみよう.  $U$  を  $R^4$  の空でない開集合とする.  $E_x, E_y, E_z, B_x, B_y, B_z$  を  $U$  上で定義された滑らかな関数であるとし,  $U$  上の 2 形式  $F$  を

$$F := (E_x dx + E_y dy + E_z dz) \wedge dt + B_x dy \wedge dz + B_y dz \wedge dx + B_z dx \wedge dy$$

で定める.

(1)  $dF$  を計算し,  $dF = 0$  は

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t}, \quad \nabla \cdot \mathbf{B} = 0$$

と同値であることを示せ. ただし,

$$\mathbf{E} := (E_x, E_y, E_z), \quad \mathbf{B} := (B_x, B_y, B_z), \quad \nabla := \left( \frac{\partial}{\partial x}, \frac{\partial}{\partial y}, \frac{\partial}{\partial z} \right).$$

(2)  $U$  上の 2 形式

$$*F := -(B_x dx + B_y dy + B_z dz) \wedge dt + E_x dy \wedge dz + E_y dz \wedge dx + E_z dx \wedge dy$$

に対し,  $F \wedge *F$  を計算せよ.

(3)  $J := -d(*F)$  を

$$J = -\rho dx \wedge dy \wedge dz + (j_x dy \wedge dz + j_y dz \wedge dx + j_z dx \wedge dy) \wedge dt$$

と書くとき次を示せ.

$$\nabla \times \mathbf{B} = \mathbf{j} + \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t}, \quad \nabla \cdot \mathbf{E} = \rho$$

(4)  $dJ$  を計算し,

$$\nabla \cdot \mathbf{j} = -\frac{\partial \rho}{\partial t}$$

を示せ. ただし,  $\mathbf{j} = (j_x, j_y, j_z)$  である.

(5)  $A = -\phi dt + A_x dx + A_y dy + A_z dz$  とすると,  $F = dA$  となることは,

$$\mathbf{E} = -\nabla\phi - \frac{\partial \mathbf{A}}{\partial t}, \quad \mathbf{B} = \nabla \times \mathbf{A}$$

と同値であることを示せ. ただし,  $\mathbf{A} = (A_x, A_y, A_z)$  とする.

(6)  $F = dA$ となる  $A$ は一意的とは限らない.  $U$ 上の任意の滑らかな関数  $\psi$  に対し,  $A' = A + d\psi$  は  $F = dA'$  を満たすことを示せ.

(7)  $U$ 上の3形式

$$*A := \phi dx \wedge dy \wedge dz - (A_x dy \wedge dz + A_y dz \wedge dx + A_z dx \wedge dy) \wedge dt$$

に対し,  $d(*A) = 0$  は

$$\nabla \cdot \mathbf{A} = -\frac{\partial \phi}{\partial t}$$

と同値であることを示せ.

(8)  $d*dA = -J$ であるが, これは(7)の条件のもとでは,

$$\square := -\frac{\partial^2}{\partial t^2} + \frac{\partial^2}{\partial x^2} + \frac{\partial^2}{\partial y^2} + \frac{\partial^2}{\partial z^2}$$

(ダランベルシアン)に対し

$$\square \phi = -\rho, \quad \square \mathbf{A} = -\mathbf{j}$$

と同値であることを示せ.

$E$ を電場,  $B$ を磁場とする. 光速  $c = 1$ , 真空の誘電率  $\varepsilon_0 = 1$ のもとで, (1)(3)は真空中の電磁場における Maxwell の方程式である. (2)(8)の  $*$ は Minkowski 計量  $ds^2 = -dt^2 + dx^2 + dy^2 + dz^2$ に関する Hodge  $*$ 作用素である.  $\rho$ は電荷密度,  $\mathbf{j}$ は電流密度であり, (4)は連続の方程式と呼ばれる.  $\phi$ はスカラーポテンシャル,  $\mathbf{A}$ はベクトルポテンシャルと呼ばれ, (6)はゲージ変換の例, (7)の条件を Lorentz ゲージと呼ぶ. (8)の方程式は, 適当な条件のもとで解ける ( $\delta$ 関数に対する解 (Green 関数)を畳み込む).

$\mathbf{R}^3$ の Euclid 計量  $ds^2 = dx^2 + dy^2 + dz^2$ に関する Hodge  $*$ 作用素のときは, 関数の  $d*d$ はラプラシアン  $\Delta = \frac{\partial^2}{\partial x^2} + \frac{\partial^2}{\partial y^2} + \frac{\partial^2}{\partial z^2}$ と対応し,  $d*dF = (\Delta F)dx \wedge dy \wedge dz$ である. ベクトル場で表すと  $\Delta F = \operatorname{div} \operatorname{grad} F$ である.

16  $\mathbf{R}^4$ の2形式  $\omega = dx_1 \wedge dx_2 + dx_3 \wedge dx_4$ を考える. 2つのベクトル  $\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} a_{11} \\ a_{21} \\ a_{31} \\ a_{41} \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} a_{12} \\ a_{22} \\ a_{32} \\ a_{42} \end{bmatrix}$ で

張られる部分空間  $V$ に対し,  $\omega|_V = 0$ となるための必要十分条件を求めよ.

ただし,  $V$ の一つのパラメータ表示を  $f: \mathbf{R}^2 \rightarrow V$ ,  $(s, t) \mapsto s\mathbf{a}_1 + t\mathbf{a}_2$ として,  $\omega|_V$ とは  $f^*\omega$ のことであるとする.

17  $\mathbf{R}^3 \setminus \{O\}$ において,  $r := \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$ とし, 次の2形式  $\omega$ を考える.

$$\omega := \frac{1}{r^3}(x dy \wedge dz + y dz \wedge dx + z dx \wedge dy)$$

(1)  $dr$ および  $dr \wedge \omega$ を計算せよ.

(2)  $\omega$ が閉形式であることを示せ.

(3)  $a > 0$ ,  $\theta_0 \leq \theta_1$ ,  $\varphi_0 \leq \varphi_1$ として, 写像  $\gamma: [\theta_0, \theta_1] \times [\varphi_0, \varphi_1] \rightarrow \mathbf{R}^3 \setminus \{O\}$ を次で定める.

$$(\theta, \varphi) \mapsto (a \cos \theta \cos \varphi, a \sin \theta \cos \varphi, a \sin \varphi)$$

$\int_{\gamma} \omega$ を求めよ. 特に,  $\theta_0 = -\pi$ ,  $\theta_1 = \pi$ ,  $\varphi_0 = -\pi/2$ ,  $\varphi_1 = \pi/2$ のときの値はいくらか.

(4)  $\omega$ は完全形式ではないことを示せ.

18  $\gamma : [0, 2\pi] \times [0, 2\pi] \rightarrow \mathbf{R}^4$  を  $(s, t) \mapsto (\cos s, \sin s, \cos t, \sin t)$  で定める. 像は  $x_1^2 + x_2^2 = 1$  かつ  $x_3^2 + x_4^2 = 1$  で定まる曲面  $S$  になる.

(1)  $\omega = (x_1 dx_2 - x_2 dx_1) \wedge (x_3 dx_4 - x_4 dx_3)$  とするとき,  $\gamma^* \omega$  を計算せよ.

(2)  $\int_{\gamma} \omega$  を計算せよ.

19  $z \in \mathbf{C} \setminus \{0\}$  と  $(x, y) \in \mathbf{R}^2 \setminus \{O\}$  を,  $z = x + iy = re^{i\theta}$  により同一視する.  $(r, \theta)$  は極座標である.

(1)  $\frac{dz}{z} = d \log z = d \log r + i d\theta$  を確かめ,  $d \log r, d\theta$  をそれぞれ  $x, y$  で表せ.

(2)  $k \in \mathbf{Z}$  とし,  $\rho : [0, 1] \rightarrow \mathbf{R}_{>0}$  を正の実数値をとる  $C^1$  級関数で  $\rho(0) = \rho(1)$  を満たすとする.  $\gamma : [0, 1] \ni t \mapsto (\rho(t) \cos 2\pi kt, \rho(t) \sin 2\pi kt) \in \mathbf{R}^2 \setminus \{O\}$  に対し,  $\frac{1}{2\pi i} \int_{\gamma} \frac{dz}{z}$  を (留数定理を使わずに) 求めよ.

20  $S^1 = \{(x, y) \in \mathbf{R}^2 \mid x^2 + y^2 = 1\}$  について次の問いに答えよ.

(1) 座標近傍系として,  $\{(U_{x>0}, y), (U_{x<0}, y), (U_{y>0}, x), (U_{y<0}, x)\}$  を取る. ただし  $U_{x>0} := S^1 \cap \{x > 0\}$  等とする. それぞれで 1 形式を

$$\frac{dy}{\sqrt{1-y^2}}, \quad -\frac{dy}{\sqrt{1-y^2}}, \quad -\frac{dx}{\sqrt{1-x^2}}, \quad \frac{dx}{\sqrt{1-x^2}},$$

で定めると, 共通部分で貼り合い  $S^1$  上の 1 形式  $\omega$  が定まることを示せ.

(2)  $\omega$  は  $S^1$  のどの点でも 0 にならないことを示せ.

(3)  $S^1$  上の任意の 1 形式  $\eta$  に対し,  $\eta = f\omega$  となる滑らかな関数  $f : S^1 \rightarrow \mathbf{R}$  が存在することを示せ.

(4)  $\sigma : S^1 \rightarrow S^1$  を  $(x, y) \mapsto (x, -y)$  で定めるとき,  $\sigma^* \omega = -\omega$  を示せ.

(5)  $S^1$  上の 1 形式  $\eta$  が  $\sigma^* \eta = \eta$  を満たすとき, 点  $(\pm 1, 0)$  において  $\eta = 0$  であることを示せ.

21 問 20 の  $\omega$  を用いる.  $S^1$  の点  $N(-1, 0)$  を除いた開集合を  $U_0$  とする. 局所座標  $\varphi_0 : U_0 \rightarrow \mathbf{R}$  が  $(x, y) \mapsto t := \frac{y}{x+1}$  で定まる. 同様に,  $S(1, 0), U_1 := S^1 \setminus \{S\}$  として,  $\varphi_1 : U_1 \rightarrow \mathbf{R}$  を  $(x, y) \mapsto u := \frac{y}{x-1}$  で定める.  $\varphi_0, \varphi_1$  が同相写像であることは認めてよい.

(1) 座標変換  $u = \varphi_{10}(t)$  を  $t$  の式で表せ (ヒント:  $tu$  を計算する)

(2)  $\omega_1 := \frac{2du}{1+u^2}$  に対し,  $\varphi_{10}^*(\omega_1)$  を計算せよ.

(3)  $\omega|_{U_1} = \omega_1$  を示せ.  $\omega|_{U_0}$  を  $t$  で表せ.

(4)  $S^1 \subset \mathbf{R}^2$  に関して,  $(-y dx + x dy)|_{S^1} = \omega$  を示せ (各座標近傍上で一致することを示す)

(5)  $B^2 := \{(x, y) \in \mathbf{R}^2 \mid x^2 + y^2 \leq 1\}$  の標準的向き付け ( $dx \wedge dy$  から定まる向き付け) の境界として定まる  $S^1$  の向き付けと,  $\omega$  から定まる  $S^1$  の向き付けは同値であることを示せ.

(6) 向き付け  $\omega$  に関して,  $\int_{S^1} \omega$  を求めよ.

(7)  $\omega$  は完全でない閉形式であることを示せ.

22 問 20, 21 の記号を用いる.

(1)  $f : \mathbf{R} \rightarrow S^1$  を  $\theta \mapsto (\cos \theta, \sin \theta)$  で定める.  $f^* \omega = d\theta$  であることを示せ.

(2)  $f$  は局所微分同相写像であることを示せ (逆関数の定理を用いよ)

(3)  $U_0, U_1$  上でそれぞれ  $f^{-1}$  の主値を選び  $\psi_0 : U_0 \rightarrow (-\pi, \pi), \psi_1 : U_1 \rightarrow (0, 2\pi)$  とする.  $U_0 \cap U_1$  上で  $\psi_{10}^* d\theta = d\theta$  を示せ. ただし共通部分は 2 つの連結成分  $U_{y>0}$  と  $U_{y<0}$  からなることに注意せよ.

(4)  $d\theta$  が貼り合っできる 1 形式は  $\omega$  と一致することを説明せよ.

(5)  $\iota : S^1 \rightarrow S^1$  を  $(x, y) \mapsto (-x, -y)$  で定める.  $\iota^* \omega = \omega$  を示せ.

23  $U, V$  を  $\mathbf{R} \times [-1, 1]$  の2つのコピーとし, それぞれの座標を  $(x, s), (y, t)$  とする.  $\{(x, s) \in U \mid x \neq 0\}$  と  $\{(y, t) \in V \mid y \neq 0\}$  を次の座標変換  $\varphi$  で同一視する.

$$(y, t) = \varphi(x, s) = \begin{cases} (\frac{1}{x}, s) & (x > 0) \\ (\frac{1}{x}, -s) & (x < 0) \end{cases}$$

貼り合わせてできる境界つき多様体  $M = U \cup V$  をメビウスの帯 (Möbius band) という.

- (1)  $\varphi$  は可微分同相写像であることを確かめよ.
- (2) メビウスの帯は向き付け不可能であることを示せ.
- (3)  $S^1$  から  $x_1 = 0$  となる2点を除いた開集合を  $U_1$  とし,  $x_2 = 0$  となる2点を除いた開集合を  $U_2$  とする.  $S^1$  から  $\partial M$  への可微分写像  $f$  が,

$$U_1 \ni (x_1, x_2) \mapsto \left( \frac{x_2}{x_1}, \frac{x_1}{|x_1|} \right) \in U$$

$$U_2 \ni (x_1, x_2) \mapsto \left( \frac{x_1}{x_2}, \frac{x_2}{|x_2|} \right) \in V$$

により定まることを示せ (微分可能であり, 共通部分  $U_1 \cap U_2$  で像が一致することを示せ.)

- (4) 境界  $\partial M$  は  $S^1$  と可微分同相であることを示せ.

24  $S^2$  上の2点  $N(0, 0, 1)$ , 点  $S(0, 0, -1)$  を考える.

- (1) 点  $P(x, y, z) \in U := S^2 \setminus \{N\}$  に対し, 直線  $NP$  と平面  $z = 0$  の交点を  $(x_1, x_2, 0)$  とする.  $x_1, x_2$  を  $x, y, z$  で表せ.
- (2) 点  $P(x, y, z) \in V := S^2 \setminus \{S\}$  に対し, 直線  $SP$  と平面  $z = 0$  の交点を  $(y_1, y_2, 0)$  とする.  $P(x, y, z) \in S^2 \setminus \{N, S\}$  のとき,  $y_1, y_2$  を  $x_1, x_2$  で表せ.
- (3)  $dy_1 \wedge dy_2$  を  $x_1, x_2$  で表し,  $(U; x_1, x_2)$  と  $(V; y_1, y_2)$  は違う向きであることを示せ.
- (4)  $S^2$  が向き付け可能であることを示せ.
- (5)  $\omega = xdy \wedge dz - ydx \wedge dz + zdx \wedge dy$  に対し,  $\omega|_U$  を  $x_1, x_2$  で表せ.

- (6)  $U$  の向き付けを  $dx_1 \wedge dx_2$  で与えるとき,  $\int_U \omega|_U$  (広義積分) を計算せよ.

25 前問の記号を用いる.

- (1)  $\iota: S^2 \rightarrow S^2$  を  $(x, y, z) \mapsto (-x, -y, -z)$  で与える.  $\iota^*\omega = -\omega$  であることを示せ.
- (2)  $S^2$  上の2形式  $\eta$  が  $\iota^*\eta = \eta$  を満たすなら, ある点  $P$  において  $\eta(P) = 0$  であることを示せ.
- (3)  $\pi: S^2 \rightarrow \mathbf{R}P^2$  を標準的全射とする.  $\pi \circ \iota = \pi$  に注意する.  $\mathbf{R}P^2$  は向き付け不可能であることを示せ.

26  $S^2$  に  $B^3 := \{(x, y, z) \in \mathbf{R}^3 \mid x^2 + y^2 + z^2 \leq 1\}$  の境界としての向きを入れる.

$\mathbf{R}^3$  の2形式  $\omega = xdy \wedge dz - ydx \wedge dz + zdx \wedge dy$  に対し  $\int_{S^2} \omega|_{S^2}$  を計算せよ.

27 境界つき多様体で, 境界は局所座標の選び方によらず定まることを示せ.

28  $F$  を  $\mathbf{R}^n$  の領域  $U$  上の  $C^1$  級関数とする.  $dF \equiv 0$  ならば,  $F$  は  $U$  上定数関数であることを示せ.

29 次の  $\mathbf{R}^3$  上の微分形式  $\varphi$  が完全ならば,  $\varphi = d\psi$  となる  $\psi$  を一つ求めよ.

- (1)  $(x^2 - yz)dx + (y^2 - xz)dy + (z^2 - xy)dz$
- (2)  $(x + y + z)(dx + dy + dz)$
- (3)  $(y + z)dx + (x + z)dy + (x + y)dz$
- (4)  $dx \wedge dy + dy \wedge dz + dz \wedge dx$
- (5)  $e^{x^2+y^2} \sin z \, dx \wedge dy \wedge dz$

30  $0 < r < R$  に対し

$$T^2 := \{(x, y, z) \in \mathbf{R}^3 \mid (\sqrt{x^2 + y^2} - R)^2 + z^2 = r^2\}$$

$$K := \{(x, y, z) \in \mathbf{R}^3 \mid (\sqrt{x^2 + y^2} - R)^2 + z^2 \leq r^2\}$$

とする.  $T^2$ ,  $K$  はそれぞれトーラス (torus), ソリッドトーラス (solid torus) と呼ばれる.  $K$  には  $\mathbf{R}^3$  から定まる向き  $dx \wedge dy \wedge dz$  が入り,  $T^2$  に  $K$  の境界としての向きを入れる.

$$\omega = \left\{ \frac{\sqrt{x^2 + y^2} - R}{r\sqrt{x^2 + y^2}}(xdy \wedge dz - ydx \wedge dz) + \frac{z}{r}dx \wedge dy \right\} \Big|_{T^2}$$

とする. 写像  $\gamma: D = [0, 2\pi] \times [0, 2\pi] \rightarrow T^2$  を次で定める.

$$\gamma(s, t) = ((R + r \cos s) \cos t, (R + r \cos s) \sin t, r \sin s)$$

(1)  $\gamma$  は全射であり,  $T^2$  は弧状連結であることを示せ.

(2)  $\omega$  は  $T^2$  上のどこでも 0 にならないことを示せ.

(3)  $\omega$  は正の向きであることを示せ.

31 問 30 の記号を用いる. ただし

$$\omega' = \frac{1}{3}(xdy \wedge dz - ydx \wedge dz + zdx \wedge dy)|_{T^2}$$

とする.

(1) ストークスの定理を用いて  $\int_{T^2} \omega'$  を求めよ.

(2)  $xdy \wedge dz + ydx \wedge dz, xdy \wedge dz - zdx \wedge dy$  は  $\mathbf{R}^3$  の完全形式であることを示せ.

(3)  $\eta = (xdy \wedge dz)|_{T^2}$  とする.  $\eta$  と  $\omega'$  は同じ  $H_{DR}^2(T^2)$  の元を定めることを示せ.

(4)  $\gamma^*\eta$  を  $s, t$  で表せ.

(5)  $\int_{\gamma} \eta$  を計算せよ.

32 マイヤー・ヴィエトリスの完全系列を用いて,  $S^1$  のド・ラムコホモロジー群を求めよ.

33 次は変位レトラクションであることを示せ.

$$r: \mathbf{R}^{n+1} \setminus \{O\} \rightarrow S^n, \quad r(\mathbf{x}) = \frac{1}{|\mathbf{x}|}\mathbf{x}$$

34 位相空間  $M$  のレトラクト  $A$  に対し,  $A$  から位相空間  $X$  への連続写像は  $M$  からの連続写像に拡張できることを示せ.

35  $M, N$  を位相空間とする.

(1)  $F(x, t), G(x, t)$  を  $M \times [0, 1]$  から  $N$  への連続関数とし, 任意の  $x \in M$  に対し  $F(x, 1) = G(x, 0)$  であるとする. このとき次で定める  $H(x, t)$  も  $M \times [0, 1]$  から  $N$  への連続関数であることを示せ.  
 $H(x, t) = F(x, 2t) (0 \leq t \leq \frac{1}{2}), H(x, t) = G(x, 2t - 1) (\frac{1}{2} \leq t \leq 1)$ .

(2)  $M$  から  $N$  への連続写像全体の集合に対し, ホモトピックであることは同値関係を定めることを示せ.

36  $M, N$  を位相空間とし,  $N$  は可縮であるとする. このとき, 任意の 2 つの連続写像  $f, g: M \rightarrow N$  はホモトピックであることを示せ.

37 ホモトピー同値 (同じホモトピー型をもつこと) は, 位相空間の全体に同値関係を定めることを示せ.

38 問 23 の記号を用いる .

- (1)  $U$  で  $s = 0$  ,  $V$  で  $t = 0$  で定まる部分集合の和集合を  $A$  とする .  $A$  は  $M$  の変位レトラクトであることを示せ .
- (2) 開いたメビウスの帯 (境界を除いたもの) のド・ラムコホモロジー群を求めよ .
- (3)  $M$  上の閉 1 形式で , 完全ではないものを 1 つ求めよ .

39  $\mathbf{R}^2$  から 2 点  $O, A(1, 0)$  を除いた開集合を  $U$  とする .

- (1)  $U_0 = \{(x, y) \in \mathbf{R}^2 \setminus \{O\} \mid x < 1\}$  ,  $U_1 = \{(x, y) \in \mathbf{R}^2 \setminus \{A\} \mid x > 0\}$  とするとき ,  $U_0, U_1$  は  $S^1$  とホモトピー同値であることを示せ .
- (2)  $H_{DR}^p(U)$  ( $p = 0, 1, \dots$ ) を計算せよ . また , 生成元を代表する閉形式を 1 つずつ求めよ .

40 閉円板と  $\mathbf{R}^2$  は , 同相ではないが , ホモトピー同値であることを示せ .

41  $\mathbf{R}^{n+1}$  ( $n \geq 2$ ) において ,  $N(0, \dots, 0, 1)$  ,  $S(0, \dots, 0, -1)$  ,  $U_0 := S^n \setminus \{N\}$  ,  $U_1 := S^n \setminus \{S\}$  とする .

- (1)  $U_0 \cap U_1$  は  $S^{n-1}$  とホモトピー同値であることを示せ .
- (2) 次を示せ .

$$H_{DR}^p(S^n) \cong \begin{cases} \mathbf{R} & (p = 0, n) \\ 0 & \text{その他} \end{cases}$$

42  $\mathbf{R}^{n+1}$  上の微分形式  $\omega = \sum_{i=1}^{n+1} (-1)^{i-1} x_i dx_1 \wedge \cdots \widehat{dx}_i \cdots \wedge dx_{n+1}$  ,  $\nu = x_1 dx_1 + \cdots + x_{n+1} dx_{n+1}$  を考える .

- (1)  $\nu$  は完全であることを示せ .
- (2)  $\nu \wedge \omega$  を計算せよ .
- (3)  $\omega|_{S^n}$  は  $S^n$  の向き付けを与えることを示せ .
- (4)  $\int_{S^n} \omega|_{S^n}$  を計算せよ .
- (5)  $\omega|_{S^n}$  の類は  $H_{DR}^n(S^n)$  の基底になることを示せ .

43 可微分写像  $f: S^3 \rightarrow S^2$  と ,  $S^2$  上の 2 形式  $\alpha$  について次の問いに答えよ .

- (1)  $S^3$  上の 2 形式  $f^*\alpha$  は閉であることを示せ .
- (2)  $f^*\alpha$  は完全であることを示せ .
- (3)  $f^*\alpha = d\omega = d\omega'$  となる  $S^3$  上の 1 形式  $\omega, \omega'$  を任意に選ぶ .  
 $\omega - \omega'$  および  $\omega \wedge d\omega - \omega' \wedge d\omega'$  は完全であることを示せ .

(4) 積分

$$\int_{S^3} \omega \wedge d\omega$$

は  $f^*\alpha = d\omega$  となる  $\omega$  の選び方に依らないことを示せ (以後この積分の値を  $H(f, \alpha)$  と書く .)

- (5) 可微分写像  $F: S^3 \times \mathbf{R} \rightarrow S^2$  に対し ,  $F^*\alpha = d\eta$  となる  $S^3 \times \mathbf{R}$  上の 1 形式  $\eta$  が存在することを示せ .
- (6)  $\eta \wedge d\eta$  は閉であることを示せ .
- (7)  $g: S^3 \rightarrow S^2$  が  $f$  と  $C^\infty$  ホモトピックな可微分写像ならば ,  $H(g, \alpha) = H(f, \alpha)$  であることを示せ .

44  $U$  を  $\mathbf{R}^3$  の開集合とする .  $P, Q, R$  を  $U$  上の  $C^\infty$  級関数として ,  $U$  上の 1 形式  $\omega = Pdx + Qdy + Rdz$  に対し , 次の問いに答えよ .

- (1)  $\omega \wedge d\omega$  を計算せよ .
- (2)  $U$  上至るところ 0 でない関数  $f$  が存在して  $f\omega$  が完全になるとき , 次を示せ .

$$P \left( \frac{\partial R}{\partial y} - \frac{\partial Q}{\partial z} \right) + Q \left( \frac{\partial P}{\partial z} - \frac{\partial R}{\partial x} \right) + R \left( \frac{\partial Q}{\partial x} - \frac{\partial P}{\partial y} \right) = 0$$